
des鬼。

零夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

d e s 鬼。

【Nコード】

N 6 5 0 9 Z

【作者名】

零夜

【あらすじ】

この世界では、d e s 鬼と言う。変な遊びいや．．
犯罪と言ってもいいようなことが続いていた。
10人、この世界を逃げ回ってる．．

ゲームスタート。

司「はあはあはあ．．」

俺は、今逃げてる。

そう、あのフードを着た鬼達から。

上も下も黒。そして、黒いフードのあいっらの右手には、ナイフでも刀でもない。やつらは、触れるだけで殺せる。
ぜったいさっしゅつのつりよく

1 絶対殺傷能力

今、俺の目の前でも一人、心臓からさけて死ぬのを見た。

まだ。16だと言うのに、人が死ぬのを目の前で見せられる。

俺を含めて10人、逃げている。元々、この「des鬼」と言うのは、子供の遊びで。

増やし鬼のような物だった．．

だが。それを、国の王、僕の実の兄であるが、その兄が、des鬼をもつと完全な物にしようと．．

絶対殺傷能力をもつ鬼を作った。

奴らは、どんなスポーツ選手よりも足が速い．．

そんなdes鬼、につき合わされていた。

ゲームスタート。(後書き)

鬼ごっこー！楽しいですよー！でもその鬼ごっこが。
タッチじゃなくて、殺されるとしたら？

ファーストステージ。 (前書き)

逃げ回ってももう半日か・・・このままだと俺の体力がやばいな、
持つだろうか？

ファーストステージ。

「ちっ．．．またかよ！！」

俺は、エレベーターを降りた。

ドアを開いた瞬間前に鬼が居た。

ヤバイっ．．．このままだと死ぬ。
どうする？

そんな事を思っていると鬼が入ってきた。

「こうなったら！！おらっ！」

俺は、狭いエレベータの幅を利用して．．

足をエレベーターの壁にジャンプして、踏ん張った。

そして、鬼同士がぶつかった。

その隙に、ドアに飛び降り。エレベーターを降り。

そのままエスカレーターを駆け下りた。

鬼は、気絶しているようだ。

その下には、??「はあはあ！！まったく．．しっこい。」

「お前も．．逃げてるのか？」

「貴方も？」

「見れば分かんذار？」

名前は、？」

「私は、由里那．．貴方と同じ、逃げている」

「俺は、兄のせいでこんな目にあってるけど

お前は？」

「私は、貴方の親が浮気をして、できた子供、」

「じゃあ．．」

「ええ、隠し子よ。」

そんな事を言っている間に、あいつらが来る。

「また来た．．」

「休みがないな．．鬼になりてー」

「馬鹿なことを言わないで・逃げるよ」
つづく

ファーストステージ。(後書き)

d e s 鬼に明け暮れる日々．．
そんな時、生存者を見つけた。

狙撃鬼。（前書き）

馬鹿馬鹿しいゲームが始まって。

もう体力がほぼ残ってない。俺達は、ほぼ気力だけで走ってた。

そんなところに、本当に死ぬかもしれない・鬼が居た。

それが狙撃鬼。走る俺達を上から、撃って直接殺してしまおうと言
うわけかはあ。。最悪だ。

狙撃鬼。

「はぁはぁはぁ．．」

馬鹿馬鹿しいゲームが始まって。

もう2時間が経過していた。

もう体力がほぼ残ってない俺達は、

倉庫に逃げ込むことができた。

それは、売られている物をしまっておく、

食糧庫のような所だった。

「ここ、食糧庫みたいね。ほら」

後ろでガサゴソ．．やっていた。由里那が何かを見つけたように言う。

「これ、カロメ？」

「どうやら、チョコ味．．私、チョコ味。好き．．あううう／＼食べたい。」

「いや。そこ妙にクールに言っなよ；

ほら、一つやる」

「あわわ！！ありがとう」

「お、おう．．」

「それ。俺もくれるか？」

ダンボールらしき中から、声が聞こえる。

「誰だ？」

「俺は、1重云^{じゅうぐん}おっ．．その子可愛いじゃん？」

金髪に染めている。見るからにチャラそうな男、

ゲームで言う。一人だけチャライが以外に強いキャラだ。

「何？貴方だれ？」

「さつき名乗ったばつかじゃん？あれ？もしかして聞いてないって奴？。そう、なんだ．．

やっぱ僕って」

「いきなりしゃべり方を変えるのは、やめてくれないか？俺ら。取っ付き難いんだが。」

「あ、ごめんごめん。そういえばもっと危険な鬼居るの。ユー知ってる？」

「ユーじゃない．俺、司。」

「おおじゃあ、つかちゃん？宜しく！よろしくちゃ〜ん」

「どこのギャグですか？それ．．」

「さっきのつづき。あのな。鬼の中には、本気で俺達のことを殺そうとして．銃や刃物を持ってる奴も

居るって事。だから、俺達は、いつでもきけんつつ事だぜ！きをつけねえとな。」

「で．．これからどうするんだ？」

「まずは、ここを出よう。」

「そうだな。」

そこにだ．．

俺達のすぐ後ろに弾が飛んできて壁に食い込む．．

なんとか避けられた俺達は、

次の行動を悩んでいた。

「これ．．どこからだ？」

「あの上からだな。俺には分かる。」

「何時になく言葉使いが丁寧だね．．」

「俺だってこう言う時ぐらいは、俺だって本気になる。命の危機だから．．」

「次はどうよける！！」

「右に三センチだ！！」

「何っ？」

「信じられないか？」

「くっ！！危なっ！！」

「ちっ！！」

俺は、由里那の手を掴む！

「えっ？」

「手．．離すなよ？」

「は、はい！！」

「うわぁ．．セッコ。」

そこに追いかけてくる鬼が三体．．

「小部屋時から出る！！！」

俺が叫ぶ。

その時．．

「あっ．．」

「由里那っ！！」

「由里那さん！！」

「きゃあああああ！！！！」

手が．．離れた

いや．．鬼に追いかけれ一人逃げたのだ．．

「由里那ああああああ！！！！」

「そんなに叫ぶなよ？男がみつともないじゃん？

俺に任せる．．あいつらには捕まえさせない」

「分かった。信じる。」

「絶対俺が守るぜ？けど．．その時は俺の彼女決定だけだな？」

「勝手にしろ」

「ありがとよ！！じゃあな？うおおおお行くぜえええ」

重云は、部屋を出て行く．．

俺は、食糧を集めるだけ集め。

部屋を出る。

つづく

狙撃鬼。（後書き）

由里那は、追われて出て行った。
由里那を重云に任せて、
自分は、急ぐ兄を止めるために・・

生存者（前書き）

俺は、由里那と重云を二人にした後、

鬼に気をつけながら隠れて行動していた時の事、

「来ないで！！やめて！！キヤアア！！助けてえええ」と声が聞こえた。

行ってみると。女が居た。

生存者

「もう重云も死んだのか．．いや分からない。今は、死なない事を考えて

行動するしかない。」

「来ないで！！やめて！！キャアア！！助けて誰か．．どうして？
どうして皆死んでいくの．．結局もう。私達を守る人はいないのね。
もう、誰も．．」

「どうすれば。生存者を助けるのがミッションだとして、自分が危ないからって。

諦めるのか？俺は、．．いや。もう目の前で人が死ぬのを見たくない。」

目の前で悲鳴が聞こえる。由里那のように．．守ろうとしたけど。
追いかけてられていった。

おそらく捕まったんだろう。いや、もう死んでいるかもしれない。

重云．．無事でいろよ。

俺は今度こそ。

「もういや．．私。死ぬんだ。」

「オラッ！！こつちだー鬼、生存者はここにもいるぞおおお！！」

「はっ．．」

俺の後ろから、5人の鬼が追いかけてくる。

俺は、全速力で逃げる。

「くそっ！！なんで助けたんだ？俺。自分の命が可愛いはずなのに．

助けてしまうなんて。やっぱり俺は俺か．．それより。どこ逃げ込めば」

「こつちだよ。僕は、どこに逃げればいいか分かる。」

「はあ？お前何言ってる？」

「信じて僕の手を取る？それとも、まだ体力に自身があるの？」

「分かったよ。」

「良かった。先に言っておく。僕は、未来人だよ。」

「はぁ？鬼の次は、未来人かよ？本当わけわかんない
しかも何しに？名前は、？」

「全部言われても僕は困るだけだよ？」

まず。名前から、僕の名前は、桂。目的は、過去の人が馬鹿げた鬼
ごっごにつき合わされると聞いて。やってきた。だから。僕は、
君達を助けにここまで来た。2年先から、
君達を助けるためなら、多少のパラドックスも起こすよ。

それが僕達、タイムズハイ」

「タイムズハイ？」

「そう、本当は話しちゃいけないんだけど・・・未来は、ネットで動
いてる。」

「でもどうやって、この時代のことを？」

「過去ネットサーバーから、過去の事件や、事故、色々な事を知る
事ができる。ある日。」

過去ネットサーバーチャットでこの時代では、最悪なゲームが行わ
れてると聞いて。

飛んできた」

「にしても・・・走りながら良く話せるな？」

「うん鍛えてるからね。あの部屋だ。あそこならしばらくの間凌げ
る。」

「この部屋なら・・・食料と寝床がある。」

「なら良かった。」

このとき俺は忘れていた。

あの子の事を・・・

「あの人のお陰で逃げ伸びてこれたけど・・・あの誰だったの？
鬼が七人・・・逃げ切れるのかな。」
つづく・・・

生存者（後書き）

俺は、未来人に出会う。

どう言う訳か。

このゲーム、俺の兄が作ったゲームには、色々な人が逃げていそう
だ。

そして、あの子を再び見つける。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6509z/>

des鬼。

2011年12月27日22時53分発行